

科目名	建築学概論 Introduction of Civil Architecture	科目コード	51610
-----	---	-------	-------

学科名・学年	環境都市工学科 4 学年（プログラム 1 学年）
担当教員	西村伸也（非常勤）
区分・単位数	履修単位科目・選択・1 単位
開講時期・時間数	前期, 30 時間【内訳：講義 30, 演習 0, 実験 0, その他 0】
教科書	なし
補助教材	なし
参考書	なし

【A. 科目の概要と関連性】

私たちの建築・生活環境を改めて考えてみることに、それを表現してみることに、そして新たにデザインしてみることを学ぶ授業です。建築の言葉と作法と考え方を学習します。空間の生活との対応・空間機能のプログラミング・建築の人間に与える心理的影響・人体尺度と空間・建築の社会的な機能への要求・文化への対応などさまざまです。授業では、多様な視点から、建築を計画する時の基本的な姿勢を学習するための講義・討論・演習を行います。

○関連する科目：都市計画(2)（前年度履修）、環境都市計画（次年度履修）

【B. 「科目の到達目標」と「学習・教育到達目標」との対応】

この科目は長岡高専の教育目標の(D)と主体的に関わる。

この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下の表に示す。

科目の到達目標	評価の重み	学習・教育到達目標との関連
①建築の言葉を理解する	33%	(d1)
②建築の作法を理解する	33%	
③建築の考え方を理解する	33%	

【C. 履修上の注意】

建築は創造的な行為です。計画のために必要となる多様で柔軟で正確な視点を、この授業から学習されることを期待しています。

【D. 評価方法】

上記の各到達目標ごとに、授業への参加・発言の評価（20%）と作業での提出物・レポートの評価（80%）を合計して、達成目標に対する理解の程度を評価するもので、60 点以上を合格とする。

【E. 授業計画・内容】

● 前期

回	内容	備考
1	(建築計画のオリエンテーション) 講義のすすめかたと講義概要を説明する。	
2	(自分の住処のイメージマップ) 住居の平面図を描く。	
3	(住居のスケール) 空間のスケール感の基本を獲得することとスケールの意味を学習する。	
4	(かたちの知覚1) 建築計画の中で使われるスケールの知覚・知覚像と歪みについて学習する。	
5	(かたちの知覚2) ゲシュタルト理論・錯視・遠近法に関する理論と実例を学習する。	
6	(かたちの知覚3) 人間がもつスケール(パーソナルスペース)を計測する。	
7	(かたちの知覚4) パーソナルスペースの特徴を学ぶ。	
8	(集合住宅の計画1) フランス・ドイツ・オーストリアの諸外国で計画されている集合住宅の空間的な特徴を学習する。	
9	(集合住宅の計画2) 日本で計画された特徴ある集合住宅事例の空間的な特徴を学ぶ。	
10	(学校の計画1) フランス・ドイツの小中学校の事例から、計画の特徴を学ぶ。	
11	(学校の計画2) 日本の小中学校の事例を概説し、集合住宅の住戸群の計画、住棟形式の手法を概説し、その計画的な意味を学習する。	
12	(学校の計画3) 学校を計画するときの基本的な考え方とその歴史的な変遷を学ぶ。	
13	(まちづくり1) 「市街地の雁木通りの再開発・再生」について、雁木の機能と使われ方を検討する。	
14	(まちづくり2) 積雪地域の特有な雁木は、街区の環境整備計画で保存・維持されるべきものか、現代的な空間に変わるためには不必要なものなのかを検討する。	
15	(まちづくり3) 三条のまちづくりについて、住民と学生との協働による活動で、里山の緑を中心市街地に移す計画の特徴とその戦略を学ぶ。	